

# 蒼穹NEWS No.2

## 関西インカレ総括号

平成 15 年 5 月 23 日発行



4 種目に出場し 26 点を獲得した西村好康（写真は 5000m、先頭）

~~~~ 目 次 ~~~~

1. 主 将 挨 拶
2. 関西インカレ対校得点
3. 関西インカレ詳細
4. 記録会の結果など

## 主将挨拶

ついに関西 I.C.一部昇格を成し遂げることができました。

選手も応援にまわった者も、それぞれが自分にできることを考え懸命に戦いました。部員全員が一丸となって挑んだ結果であると思います。

OB の皆様方にとっても本大会の一部昇格は長年の悲願であられたと思います。ようやく一つご期待にこたえることができました。

この現在の雰囲気を持しつつ、七大戦・東大戦へと繋げていこうと思います。皆様方には今後もかわらぬご指導・ご声援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**京都大学陸上競技部主将 寺田 智**

## 第80回関西学生陸上競技対校選手権大会

### 男子2部総合成績

|    |        |      |
|----|--------|------|
| 1位 | 龍谷大学   | 126点 |
| 2位 | 京都大学   | 95点  |
| 3位 | 甲南大学   | 90点  |
| 4位 | 大阪大学   | 82点  |
| 5位 | 大阪教育大学 | 69点  |
| 6位 | 奈良教育大学 | 56点  |

(2部の上位2校が1部の下位2校と入れ換え)

### 男子2部トラックの部

|    |      |     |
|----|------|-----|
| 1位 | 龍谷大学 | 96点 |
| 2位 | 京都大学 | 68点 |
| 3位 | 甲南大学 | 63点 |

### 男子2部フィールドの部

|    |        |     |
|----|--------|-----|
| 1位 | 大阪大学   | 68点 |
| 2位 | 奈良教育大学 | 59点 |
| 3位 | 龍谷大学   | 30点 |

### 男子2部昆虫の部

|    |        |     |
|----|--------|-----|
| 1位 | 大阪教育大学 | 12点 |
| 2位 | 大阪大学   | 8点  |
| 3位 | 京都大学   | 6点  |

### 男子1部総合成績

|     |        |        |
|-----|--------|--------|
| 1位  | 京都産業大学 | 194点   |
| 2位  | 大阪体育大学 | 134点   |
| 3位  | 関西学院大学 | 125.5点 |
| 4位  | 立命館大学  | 100点   |
| 5位  | 天理大学   | 57.5点  |
| 6位  | 関西大学   | 46点    |
| 7位  | 同志社大学  | 44点    |
| 8位  | 近畿大学   | 33点    |
| 9位  | 神戸大学   | 23点    |
| 10位 | 摂南大学   | 17点    |
| 11位 | 関西外語大学 | 13点    |
| 12位 | 大阪経済大学 | 11点    |

### 女子総合成績

|    |        |         |
|----|--------|---------|
| 1位 | 大阪体育大学 | 144.66点 |
| 2位 | 立命館大学  | 116点    |
| 3位 | 天理大学   | 74点     |

## 関西インカレ詳細

### 第1日目 4月25日(金) 長居周回

#### ハーフマラソン決勝

|     |       |         |         |
|-----|-------|---------|---------|
| 1位  | 片山 直人 | (大市大 3) | 1.10.26 |
| 2位  | 高木 雅之 | (甲南大 4) | 1.11.00 |
| 3位  | 古川 裕一 | (龍谷大 4) | 1.11.04 |
| 5位  | 西村 好康 | (京都大 3) | 1.13.29 |
| 7位  | 田中齊太郎 | (京都大 3) | 1.14.21 |
| 20位 | 渡辺 敬宏 | (京都大 3) | 1.19.45 |

4月下旬にもかかわらず、気温28度という過酷な条件のもとで行われた。レース序盤、1部の有力選手が自重したため1部2部が入り混じった大先頭集団が構成され、西村はその集団についた。田中はやや遅れて第2集団、渡辺は後方からのスタートとなった。西村はレース中盤で、1部の選手を含む2部先頭集団を引っ張るなど積極的なレースを展開した。しかし16キロ付近でペースが上がり集団が崩れ始めると一気に失速、一時は6位まで順位を落としたが、意地のスパートで1人かわし5位に入った。田中は、暑さで大きくペースダウンする選手が多いなか、序盤に無理をせずオープンペースで押し切った。中盤以降、落ちてきた選手を次々ととらえ、自身初となる7位入賞を果たした。渡辺も、中盤以降確実に順位を上げていったものの、前半の遅れが大きく響き精彩を欠いたまま20位でフィニッシュした。(内田翔)

### 第2日目 5月13日(火) 長居第2

#### 4×100mR 予選(3組1着+5)

松井延行-北垣卓-藤井章輔-米谷健司

3組 2着通過 41.90

1走松井は順調なスタートを切り、快調に飛ばし、余裕を持って2走の北垣へバトンを渡した。北垣は決して本来の調子ではなかったが、確実に前との差を詰めた。藤井とのバトンパスは、危ない感があったが無事に渡った。藤井は見事な走りを見せ、前に行く太成学院との差を僅かにし、スムーズなバトンパスでアンカー米谷につないだ。米谷はリラックスした走りを見せ、無事にゴールラインを駆け抜け、見事に決勝進出を決めた。(堀江匠)

#### 女子 1500m 予選(2組4着+4)

田端亜衣子(4) 2組 15着 5.13.54

スタート直後、他の選手に離されてしまったが、300mあたりからは前との差を広げずにくraitつ。しかし、800m付近で再び差を徐々に広げられてしまい、その差は20mほどになってしまう。そのままズルズルと離されていってしまいそうになったが、ここで田端持ち前の粘りが生き、1000m過ぎから追い上げを見せて差を10mにまで縮めた。そのまま前を追い抜くかと思われたがラスト200mで前がスパート。田端もスパートを見せるが追いつかずゴール。惜しくもベストには届かなかったが、熱い走りを見せてくれた。(山下輝芳)

#### 1500m 予選(2組4着+4)

内田 翔(2) 1組棄権  
西村 好康(3) 2組 2着通過 4.03.85

スローペースとなった1組目とは異なり、まずまずのペースでスタートした2組目。西村はゆったりとスタートし前半400mは中位につけた。そこから少しずつ前に上がり800m通過時には4番手ぐらいの理想的な位置につけた。先頭がペースを少し落とす中、西村はオープンでラスト1周まで刻み、そこから先頭へ。野々口(龍谷大)と競りながらスピードを上げ残り100m。ここできっちりくraitつ後続を引き離し、余裕を持って2着でゴール。3日目の決勝につながる非常に上手いレース運びだった。(宮木貴志)

#### ハンマー投げ決勝

|     |       |          |          |
|-----|-------|----------|----------|
| 1位  | 背戸 洋  | (大教大 2)  | 48m95    |
| 2位  | 藏本 龍樹 | (滋賀大 4)  | 47m71    |
| 3位  | 剣持 友宏 | (龍谷大 3)  | 47m54    |
| 11位 | 河村 和彦 | (京都大 4)  | 41m59    |
| 14位 | 八木 美典 | (京都大 M1) | 35m75 PB |

河村[40m18-41m59- × ]  
八木[35m75- × - × ]

河村は1投目、2投目と多少抑え気味だった。今年からのルール変更に伴い、それに対応する練習を積んできただけあって、真ん中に放ることができた。3投目は記録を狙い、1ターン目からスピードを上げて回転したが、いつもの癖が出て、ファウルとなってしまった。結局本来の力を見せることはできなかった。

八木は、練習の時にターンが安定しておらず、本番でも軸がぶれてしまい、1、3投目をファウルしてしまった。記録はまずまずであった。(木村克也)

## 10000mW オープン

|    |                |          |
|----|----------------|----------|
| 1位 | 杉本 明洋 (京都大4)   | 42.07.93 |
| 2位 | 柏木 祐紀 (関西大1)   | 44.57.62 |
| 3位 | 熊田 大 (びわこ成蹊大1) | 45.50.68 |

関西学生記録保持者の杉本。記録更新が期待された。1周目はやや落ち着いたペースで入り、2周目で早くも2位以下大きく引き離し、独走態勢を築く。3000mまでは関西学生記録に近いペースで歩いていたが、その後少しずつ落ち始め、記録更新は難しくなった。最後は少し持ち直したものの、自己ベストを1分以上下回る42分台でゴール。やや不本意な結果となったが、2位に1周以上の差をつけて力の差を見せつけた。オープン種目のため得点にならないのが残念だが、チームには大きな追い風となったことだろう。(内田翔)

## 4×400mR 予選(2組3着+2)

花谷直人 藤井章輔 北垣卓 村地優樹

### 2組3着通過 3.17.74

1走花谷は、いつも通り前半をゆったりとしたペースで入り、後半に加速し、無難につないだ。2走の藤井は他大学の選手が速く、集団に食い込むことはできなかったが、ラップ48秒台と快走を見せた。3走の北垣は、前半から積極的な走りを見せたが、最後はさすがにばてた。しかし順位を1つ上げて、村地につないだ。村地は、前半の走りが課題であったがそれを克服し、順位を3つ上げて、見事にエースとしての役割と力を見せた。(堀江匠)



4×400m 2走藤井 3走北垣

## 第3日目 5月14日(水) 長居第2

### 女子100m予選(5組2着+6)

#### 滝上 伸子(3) 2組7着 14.38(+0.8)

前傾を保ったまま、いい形でスタートすることができた。中盤から他大学の選手との差が広がり、苦しい展開となったが、失速もなく、スムーズに後半の走りにつながった。しかし、70m付近から完全に失速してしまい、あとはもがきだけの走りになってしまい、中盤以降の走りに課題を残した。ただ、前半の走りはよくなってきており、後半の課題を徐々に改善し、今後の走りにつなげていくことを期待する。(瀬々井巖士)

### 100m予選(6組3着+6)

#### 松井 延行(2) 1組2着通過 11.02(+1.0)

持ち前のスタートで勢いよく飛び出した松井は、上手く加速をし、50m付近で好位置につけた。70m付近で少し硬くなり、それに伴い僅かながら失速してしまっただが、昨シーズンとはやはり一味違い、粘りを見せ、1位の選手との差をつめた。ゴール前では、3着で準決勝に進出できるため、流すことのできるほどの余裕をもって、2着通過した。(瀬々井巖士)

### 1500m決勝券

|    |               |              |
|----|---------------|--------------|
| 1位 | 後藤 良徳 (大教大4)  | 3.51.19(大会新) |
| 2位 | 野々口 範一 (龍谷大1) | 3.56.37      |
| 3位 | 西村 好康 (京都大3)  | 3.56.96      |

ランキングは3位なので上位入賞の期待がかかる。小雨のばらつく微妙なコンディションの中スタートした。レースは後藤(大教大)が最初からとび出すハイペースの展開で進んだ。しかし、西村も果敢についていき、400mは61秒で通過。後藤は600m付近から独走態勢だったが、西村は野々口(龍谷大)にぴったりつき、3番手で800mを2分5秒で通過。その後もペースを維持し野々口とのデッドヒートが続く。ラスト100mから西村はラストスパートをかけるが、野々口も必死で逃げ、結局抜くことは出来ず、3位に終わった。それでも粘り強い走りは健在で、あいかわらず高いレベルの競技力を発揮していた。(三好達也)

### 400m予選(5組2着+6)

#### 村地 優樹(3) 3組2着通過 49.51

普段は前半抑え気味の村地だが、スタートから積極的な走りを見せた。バックストレートでは、快調なペースで中原(龍谷大)に続いた。最終コーナーを抜ける時点では、アウトレーンの中瀬(和歌山大)の選手よりやや後ろの位置だったが、直線に入ると同時に抜きさり、ラストでは左右を振り返りながらの余裕を持って、2着で予選を通過した。(平野聖)

## 円盤投げ決勝

- 1位 丹羽 敦巳 (奈教大 M2) 41m94(大会新)  
2位 平川 善啓 (龍谷大 4) 40m67  
3位 剣持 友宏 (龍谷大 3) 36m38  
10位 河村 和彦 (京都大 4) 30m48

河村[30m48-28m87-29m92]

気温が低く、しかも雨という悪天候の中始まった。以前から調子が悪いという河村は、練習では円盤が不安定な飛行をしていた。1投目は、やはり円盤が安定せず、30mを少し超えたあたり。2投目、飛行は安定していたものの、手がすべってショート。3投目、またも円盤の飛行がくずれ、ショート。結局、うまくいかないまま3投目までの試技が終了、ベスト8は32m台で、今一步のところでは届かなかった。(松田俊)

## 100m 準決勝(3組 2着+2)

松井 延行(2) 2組 2着通過 11.08 (-0.2)

予選同様、スタートから飛び出し、30m付近で既に2番手につけた。予選のときは後半に硬さが出て失速してしまっていたが、準決勝では力みが全くなかったわけではないものの、失速することもなく、そのまま2番手でゴールした。向かい風0.2mという微風ではあったが、悪条件の中、11秒08の堂々たる走りを見せ、見事に決勝進出を決めた。(瀬々井巖士)



100m 松井延行



三段跳 福山大典

## 三段跳決勝

- 1位 福山 大典 (京都大 3) 14m88 (+0.3) PB  
2位 安積 高靖 (大阪大 4) 14m75 (+0.9)  
3位 三木 智之 (奈良教大 3) 14m39 (+0.8)  
4位 粟村 聡資 (京都大 M1) 14m28 (+0.6)  
8位 横矢龍之介 (京都大 2) 13m81 (+0.9)

福山[x - x -14m57- x - x -14m88]

粟村[x -14m28- x - x - - - x ]

横矢[x - x -13m81- - - - - ]

天候は雨、風も回りコンディションは決して良くなかった。しかし、粟村、福山は去年の雪辱を晴らすべく、他校の選手とも気合の入り方が違っていた。粟村は1本目ファールしたものの、2本目は自己ベストに近い14m28を出す。福山も3本目に14m57を出し、一躍トップに立つ。横矢は3本目に踵を痛め、4本目以降の跳躍は断念した。ベスト8に入ってから他校の選手が力を見せ出し、6本目には安積(大阪大)が福山を抜きトップに立ったが、その直後福山が14m88で逆転し優勝した。粟村は4位、横矢は8位と、それぞれが十分な仕事を果たした。(杉本昌大)

## 10000m 決勝

- 1位 西村 好康 (京都大3) 31.21.24  
2位 片山 直人 (大市大3) 31.25.63  
3位 浅山 瑠樹 (甲南大2) 31.28.44  
10位 田中齊太郎 (京都大3) 32.26.90 PB

前半はゆっくりとした流れとなり、西村は5番手、田中は11番手につけた。5000mを通過したところでペースが上がり、集団は両選手を含む8人にしぼられた。6000mでさらにペースが上がり、6人となった。この時点で田中が離れ、後ろにも追いつかれて4人の集団になった。西村は先頭集団の後ろのほうで常に余裕を持って走っていた。徐々に集団の人数が減っていき、残り500mではじめて西村が前に出た。驚異的なスパートで一気に突き放し、この種目2連覇を達成した。田中は後方集団で粘ったが、8500mで放されてしまった。それでも自己ベストを20秒更新するという立派な走りだった。(宇部達)

## 400m 準決勝(2組3着+2)

### 村地 優樹(3) 2組1着通過 49.52

4レーンという好位置でのスタート。前半は、例のごとくやや抑え気味であった。バックストレートでは4、5番手の位置であったが、第3コーナーから激しく追い上げ、コーナーをトップで抜け出し、ラストパートでは、他を寄せ付けない、圧巻の走りで見事に準決勝1着、決勝に進出した。エースの自信と力強さを感じさせる、非常に格好のよい、まさに大エースの走りであった。(平野聖)

## 十種競技(前半)

### 花谷 直人(4) 3166点

[100m11.08(+1.4)-LJ6m38(+1.9)-SP8m06-HJ1m65-400m50.78]

花谷は先日ベストを更新しており、いい形でこの大会に臨むことができた。まずは100m。スタートで一気に飛び出すとそのまま他を寄せ付けずゴール。雨天ながら自己ベストに迫る快走であった。走幅跳ではやはり踏み切りに難があったが6m38と無難に得点した。次の砲丸投では調子が上がらず8m06。走高跳では1m65まですべて1回でクリアするも、1m70で惜しくもミス。その後豪雨の中のレースとなった最終400mでは本人も「50秒切りを感じた」ほどの快走であったが雨のためか記録は50秒72にとどまった。1日目を終えて2位につけた。(垣畑陽)

## 対校交差点(3日目終了時点)

- 1位 龍谷大学 45点  
2位 京都大学 34点  
3位 甲南大学 25点  
3位 大阪教育大学 25点  
5位 大阪大学 21点

## 第4日目 5月15日(木) 長居第2

## やり投げ決勝

- 1位 永久保太士 (大阪大M2) 60m30  
2位 岡崎 陽介 (甲南大3) 60m25  
3位 上田 雄義 (大阪大1) 57m52  
13位 松田 俊 (京都大2) 43m55

### 松田[43m55-42m07-x]

調子がよいということで、50m越えも期待された。1投目は、やり先が上に向きすぎて距離が出なかった。2投目も同じようになった。3投目は右に大きくそれてしまい、ファウルだった。ベスト8に残るには50m以上が必要だったので、残念ながら3投で終了となった。全体的に気合が空回りした感があった。(真鍋文朗)

## 女子走幅跳決勝

### 北川 佳奈(3) 26位 4m44 (+1.2)

[x-x 4m44]

アップから動きは悪くない。前日の練習でもいろいろ試していた様子だが、本番では1回目、2回目とファウル。公式練習のときよりスピードが出て、かつ強い風の影響もあったか。跳躍は悪くなく、記録もそこそこ望めただけに惜しかった。ただ、本人は1回目の着地で今後につながるものを見つけたようだ。3本目は30cm手前で踏み切り、4m44となった。1回生で有望株が入ってくるだけに、今大会での競技を生かして今後につなげてほしい。(滝上伸子)

## 110mH 予選(3組2着+2)

### 佐藤真一郎(4) 1組2着通過 14.98(+0.8) PB

### 尾崎 禎亮(3) 2組4着 15.72(+1.0)

1組目の佐藤は出足まずまずで、隣の田中(甲南大)についていく。2台目で降やや放されるも自分のリズムで進んでいく。9台目あたりでやや差を詰めてそのままゴール。14秒98とベストを更新して2着通過。2組目の尾崎は体調がいまいち上がってこない中でレースを迎えることになった。スタートからキレがなく精彩を欠いたレースとなった。決勝にも残れず残念な結果となってしまった。(藤森真一郎)

## 100m 決勝(+0.8)

- 1位 山下 朋廣 (龍谷大2) 10.73  
2位 佐川 靖彰 (和歌山大4) 10.90  
3位 中田 修一 (大成学大3) 10.98  
8位 松井 延行 (京都大2) 11.16

スタートを得意としている松井だが、この日は動きが硬く、加速区間で前に出て行くことができない。レース全体を通じて硬さが見られ、後半失速し8位となった。今季好調で10秒台も期待されたが実力を発揮できず残念だった。しかし広瀬が抜け不安視された短々パートで台頭し、関西インカレ決勝に進出する選手が現れたことは非常に大きい。松井の今後の活躍に期待したい。(平野聖)

## 400m 決勝

- 1位 中原 丈晴 (龍谷大3) 47.84  
2位 村地 優樹 (京都大3) 48.60 PB  
3位 山口 匠 (大市大2) 48.68

この決勝で4本目の400mとなり疲労も心配される中、村地は5レーンからスタートする。後半型の村地としては前半から積極的な走りを見せ、6レーンの中原(龍谷大)に必死にくらいついていく。200mを過ぎたあたりから徐々に得意な後半からの快走を見せ、大きく上位に飛び出し、応援する部員たちも一気に盛り上がった。最後は2位争いを勝負強く制し、タイムも48秒60の自己ベスト。ランキングでは8位だったが、それを大きく覆す結果となり、部としても正念場で村地が非常にいい流れを作ったといえるだろう。(河野良)

## 3000mSC タイムレース決勝

- 1位 佐藤 章徳 (京都大4) 9.19.19  
2位 高木 雅行 (甲南大4) 9.21.61  
3位 國谷 健二 (桃山学大4) 9.22.95  
12位 山崎 圭介 (京都大M1) 9.39.71  
23位 大崎 友和 (京都大3) 10.06.14

1組目の大崎は、序盤先頭集団後方に位置し、最初の1000mを3分11秒とまずまずのペースで入った。しかし、中盤集団から遅れ始めると粘ることが出来ず、自己ベストを更新することは出来なかった。

2組目は実力者が互いに牽制し合ったため、2000m過ぎまで1組目のタイムを下回るスローペースとなった。佐藤は2500m付近でスパートをかけ、先頭に出る。ラスト1周は、高木(甲南大)とのすさまじい一騎打ちとなった。最後は佐藤が地力を見せて競り勝ち、宣言通りの3連覇を成し遂げた。山崎は中盤の転倒が響き、不本意な結果となってしまった。(内田翔)



3000mSC 佐藤章徳

## 女子 800m 予選(5組 2着+6)

- 岩瀬 祥子(3) 1組 6着 2.36.25 PB

第1組、7レーンからのスタート。他の選手が猛ダッシュをかける中、岩瀬は慎重な出足。帯状になった集団の最後尾につき、そのままの流れで一周目を76秒付近で通過していった。さすがに前を行く集団は速く、じりじりと離されていくものの、岩瀬は終始自分のペースを崩さず、堅実なレースを展開。前を行くペースダウンしてきた選手を600m過ぎからはかなり追い込んでいったが、結局今一步届かず、最下位でのゴールとなってしまった。しかし、後半の粘りが功を奏し、タイムは2分35秒25と自己ベストを更新した。(渡寛法)

## 800m 予選(5組 2着+6)

- 前田 昌也(2) 2組棄権  
磯島 弘(3) 3組 2着通過 2.01.64  
寺田 智(4) 5組 2着通過 2.05.28

3組では、磯島はゆったりとしたペースで100mに入る。400mは60秒フラットで通過。600mからスタートを掛け、2着になることを確信してから最後は流して、2分01秒56のタイムで準決勝進出を決めた。

5組では、後藤(大教大)が最初からハイペースで飛ばすが、寺田は冷静に自分のペースで走り、400mを60秒で通過。その後、後藤が離れていき、寺田もラストは流して2着でゴールし、準決勝進出を決めた。(三好達也)

## 走幅跳 決勝

- 1位 安積 高靖 (大阪大4) 7m22 (+0.5)  
2位 南岡 宏樹 (奈教大M2) 7m14 (+0.2)  
3位 塩見 吏貴 (京創大1) 7m10 (+0.8)  
19位 森 一 (京都大3) 6m02 (+1.3)  
棄権 杉本 昌大 (京都大2)  
森[5m81-6m02-5m94]

走幅跳は杉本が怪我のため、森1人の出場となった。天候は小雨程度で風も追い風方向に安定して吹いていた。しかし学連員である森は十分な練習が積めず、試合当日まで仕事に追われ集中しきれなかった。本人も自覚する様に助走スピードは乗らなかった。1本目は手前から踏み切り、着地も上手くいかなかった。2本目、3本目は、足は合っていたもののスピード不足で記録は出なかった。確かに今回は練習不足のため、決して良い記録ではなかった。しかし、踏み切り、着地動作にはまだまだ光るものがあるので今後期待したい。(杉本昌大)



## 110mH 決勝(+1.2)

- 1位 田村 元弘 (太成学大2) 14.43 大会新  
2位 田中 博幸 (甲南大2) 14.57  
3位 佐藤真一郎 (京都大4) 14.86 **蒼穹新**

予選をうまくまとめ、最近好調の佐藤。雨と寒さの中ではあったが、1台目、2台目と倒したあと、スピードに乗ってリズムよくまとめる。隣とうまく競り合って、他の選手を抑えて堂々の3位入賞。予選に引き続いて自己記録を更新した上、蒼穹新記録までついできた。直前に降り出した雨などの悪コンディションをなんとも感じさせず、更なる記録の更新も望める走りであった。(滝上伸子)

## 200m 予選(5組2着+6)

### 藤井 章輔(3) 1組2着通過 22.60(+1.2)

7レーンでスタートした藤井は、出だしはリラックスし、まずまずであった。前半内側の選手が3人とばしていたが、佐川(和歌山大)以外は失速し、藤井は2番手で直線に入る。終盤はやや流して、そのまま2着で予選を通過。彼にとっての勝負は、準決勝以降であろう。(平野聖)

## 400mH 予選(3組2着+2)

### 寺田 悟(M1) 2組5着 56.12

### 西村 広展(4) 3組7着 61.54

直前まで降っていた雨も上がり、比較的走りやすいコンディションでレースを迎えることとなった。2組の寺田は、スタートでやや出遅れ、1台目のハードルを越えたあたりで、エンジンをかけだす。しかし、先頭争いにはからめず、ずるずる離されていく。結局5着となり、予選通過はならなかった。西村は、スタートから果敢にとばすも、インターバルの足があわず、減速してしまう。最後まで粘りを見せ、なんとか踏ん張るものの、自己ベストには届かず、残念な結果であった。(藤森真一郎)

## 4×100mR 決勝

- 1位 太成学院大 41.42  
2位 甲南大 41.94  
3位 京都大 42.23

### [松井延行-北垣卓-藤井章輔-米谷健司]

100mで決勝進出を果たした松井が、1走としての役割を十分果たし、絶妙なバトンパスで2走の北垣へつないだ。その北垣は、どんどん前との差をつめた。北垣と藤井のバトンパスはかなりきわどいものであったが、何とか無事に渡った。藤井は無難に3番手でアンカー米谷につないだ。米谷は後ろからの猛追を受けるも、他の3人の気迫、部員の応援に後押しを受け、驚異的な粘りを見せ、見事に3着でゴールラインを駆け抜けた。(瀬々井巖士)



200m 藤井章輔

## 十種競技(後半)

### 花谷 直人(4) 2183点

[110mH16.87(+2.0)-DT22m13-PV2m90-JT33m95-1500m5.02.56]

110mHは、リズムよくハードリングをこなして、無難にゴールした。円盤投げは、2投目に失投したものの、3投目で記録を伸ばし、雨の中でいい投擲をした。3種目目の棒高跳びでは、最初の跳躍から、確実に成功していき、自己記録には届かなかったものの、それに順ずる記録で終了した。やり投げは、全体的に低調な中でまずまずの記録を残すことができ、次につながった。最終種目の1500mでは、前半はゆったりとしたペースで入ったが、徐々にペースを上げてゆき、ゴールした。見事に総合3位に入ることができた。(堀江匠)

## 十種競技(総合)

- 1位 栗山 佳之 (大教大2) 6114点  
2位 舘 真透 (大阪大M1) 5558点  
3位 花谷 直人 (京都大4) 5349点

## 対校得点(4日目終了時点)

- 1位 龍谷大学 77点  
2位 甲南大学 70点  
3位 京都大学 68点  
4位 大阪大学 50点  
5位 大阪教育大学 39点

## 第5日 (5月16日) 長居第2

### 棒高跳決勝券

- 1位 細川 尊史 (大阪大3) 4m70  
2位 谷口 拓也 (流科大2) 4m30  
3位 池田 悠樹 (奈教大3) 4m20  
5位 佐藤真一郎 (京大4) 3m40

佐藤[3m00 -3m20× -3m40 -3m60×××]

常に追い風が吹き、時には突風のような風まで吹くような中、試技が始まった。競技は2m60からスタート。佐藤は3m00を1回目で余裕のクリア。3m20、40も同じようなリズムでクリアしていく。自己記録である3m60では、高さがあまり出ず3本ミスしてしまうが、他大学選手の2人が記録なしとなり、運にも助けられ5位入賞となった。(藤森真一郎)

### 走高跳決勝券

- 1位 真鍋 周平 (大阪大3) 2m10  
2位 高橋 徳至 (京学大2) 1m90  
3位 加藤 洋介 (大院大4) 1m90  
渡邊 浩一 (京大4) 記録なし

渡邊[1m85×××]

走高跳はエントリー人数が少なく、渡邊には得点獲得の期待が高まる。競技スタートの高さは、1m85。ベスト2m00を持つ渡邊にとって、これは無理な高さではない。試技1回目、動きが硬く、バーを落としてしまう。2回目、3回目で徐々に助走、踏み切りは良くなっていったものの、結局渡邊はこの高さをクリアすることは出来ず、残念ながら、記録なしで競技を終了した。



棒高跳 佐藤真一郎

### 800m 準決勝券(2組3着+2)

- 磯島 弘(3) 2組3着通過 2.00.19  
寺田 智(4) 2組7着 2.04.46

2人とも第2組に出場。スタートからしばらく選手同士牽制しあったせいか、大きくはばらけず、ほぼ集団のまま、レースは進んだ。1周目を先頭が60秒で通過したあたりから集団が縦長になり、500m付近では、2つに割れてしまった。磯島は先頭グループに好位置でつけたが、寺田はじりじりと後退。結局、寺田の決勝進出はならなかったが、磯島はラストの競り合いもしっかりと走りぬき、2番手でゴールし、決勝行きを決めた。(渡寛法)

### 200m 準決勝券(2組3着+2)

- 藤井 章輔(3) 2組5着通過 22.24(+1.8) CB

前日の疲れが残っていたせいもあり、あまり調子はよくなかったようである。しかし、レースになるとしっかりと集中し、前半からスピードにのり、後半も硬くならず、前へ進むことができた。結果は5位ではあったが、記録は大学ベストを更新しており、なんとかプラスで拾われて、決勝に進出することができた。(松井延行)

### 砲丸投決勝券

- 1位 丹羽 敦巳 (奈教大M2) 15m03(大会新)  
2位 尾杉 友浩 (大阪大4) 13m85  
3位 赤松 潤也 (龍谷大3) 13m35  
6位 竹村 顕大朗 (京大3) 12m51  
14位 河村 和彦 (京大4) 10m85

竹村[11m45-12m30-12m06-12m08-12m51-×]

河村[10m11-10m85-10m45]

河村はハンマー投、円盤投に続いて3種目めの出場となり、疲労もだいぶたまっていると思われたが、2投目には力強く砲丸を押し出す投げができ、11m弱までもっていった。コンスタントに10mは超えており、安定した投げだった。

竹村は最近調子がよく、4投目には自己ベストにあと4cmに迫る12m51の大きな押し出しができた。6投目には前から出てもいいぐらいの気持ちで臨み、13mにもう少しという勢いのある投げができたが、サークルから出てしまいファウル。1投目こそ11m台だったが、他は12mを超えており、安定していい投げができていた。

### 400mH 決勝券

- 1位 藤本 努 (大教大2) 52.27  
2位 奥井 誠樹 (大教大4) 53.34  
3位 広岡 誠 (龍谷大2) 53.37

## 800m 決勝

- 1位 後藤 良徳 (大教大 4) 1.54.56
- 2位 梶原 大輔 (神国大 4) 1.55.56
- 3位 小野 秀彬 (佛教大 3) 1.56.89
- 6位 磯島 弘 (京都大 3) 1.59.62**

持ちタイムでは後藤(大教大)が1人抜け出ているが、あとのメンバーは均衡しているだけに、磯島には上位入賞の期待がかかる。スタート直後、やはり後藤が、1人ポンと抜け出し、これをほかの選手たちが追いかけていく展開。磯島もなかなか積極的に出足をみせ、3、4番手で1周目を58秒で通過。500m付近から、2位グループのペースがあがり、ここで磯島は少し離されてしまう。その後、ラストスパートで磯島にいつもの切れがみられなかったものの、粘りの走りで6位入賞を果たした。(渡寛法)

## 200m 決勝(+1.3)

- 1位 岡田 理 (神商大 4) 21.66
- 2位 佐川 靖彰 (和歌山大 4) 21.74
- 3位 山下 朋廣 (龍谷大 2) 21.85
- 6位 藤井 章輔 (京都大 3) 22.41**

準決勝で大学ベスト更新の好走を見せ、自身ホッとしたりと語る藤井は、強豪が顔をそろえる決勝に臨んだ。スタートは見事に決まり、上手くスピードにのる。コーナーも綺麗に抜けて、さらに伸びを見せる。最後まで必死に走り、大会前のランキングを大きく覆す、6着でゴールした。(山岸公彦)

## 5000m タイムレース決勝

- 1位 西村 好康 (京都大 3) 14.53.03**
- 2位 浅山 瑠樹 (甲南大 2) 14.54.63
- 3位 古川 裕一 (龍谷大 4) 14.55.80
- 19位 佐藤 章徳 (京都大 4) 15.39.72**
- 20位 山崎 圭介 (京都大 M1) 15.43.76**

山崎が出走した1組はやや速めのペースでスタートする。前日の3000mSCで転倒し、本調子でなかった山崎は、早い段階で先頭争いから遅れてしまう。しかし、後半はしっかり粘り、よい流れを作った。

佐藤と西村の2組は、はじめの1000mを1組目とほぼ同じ2分57秒で通過。その後先頭が次々に交代して、1kmあたり3分前後で展開していった。3000m手前でゆさぶりがかかると、佐藤は先頭集団から脱落してしまう。西村はそれ以降も常に先頭付近の位置を維持し、ラスト500mでスパート。ラスト300mでもう一度ペースを上げ、優勝をがっちりつかみ取った。(山田修裕)

## 4×400mR 決勝

- 1位 龍谷大 3.16.60
- 2位 大教大 3.17.41
- 3位 京都大 3.18.61**

### [花谷直人 藤井章輔 北垣卓 村地優樹]

1部昇格が懸かった運命の第一戦。この時点での総合順位は2位で、3位の甲南大との差は3点。京大陸上部全員の視線は、すべてトラックに向けられている。緊張の中、スタートの号砲がなる。1走は、十種競技に出場した花谷。200m付近から加速してくるというお馴染みの走法で、ほとんど他大学と差がないまま、2走の藤井章輔に託す。オープンレーン時のポジショニングもよく、トップの集団についていく。3走の北垣は、予選のときの反省を生かし、上手いペース配分で攻めていく。ホームストレートに入ってから、トップとの差をじわりじわりとつめていく。そしてアンカー村地にバトンを託す。その村地は、前半から果敢に差を詰める。ラストもさらに伸び、3着でゴールした。これにより、1部昇格が決定となった。(山岸公彦)



4×400m 4走 村地優樹

## 個人戦・記録会などの結果

(5月3日～5月10日)  
和歌山県春季選手権(5/3,10 紀三井寺)

1500m  
山下 輝芳 4.27.12  
5000m  
山下 輝芳 17.02.95

奈良県選手権(5/4 鴻池)  
ハンマー投げ  
河村 和彦 43.08  
十種競技  
花谷 直人 5388 PB  
(11.20-6.32-8.51-1.70-50.39  
16.71-21.96-2.80-35.40-5.05.73)

茨木市民陸上(5/5 万博)

1500m  
佐藤 章徳 4.03.5

第3回京都陸協記録会(5/10 西京極)

100m  
瀬々井巖士 11.49 +1.4  
西村 広展 12.03 0.0  
河野 良 12.64 +1.8

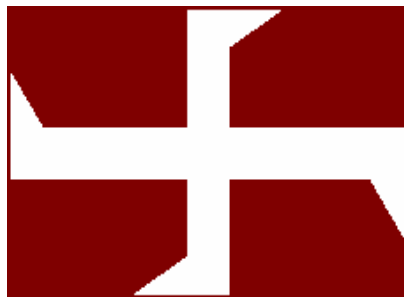
400m  
寺田 智 53.02

1500m  
渡 寛法 4.14.89 PB  
菅原 健志 4.17.28 PB  
渡辺 敬宏 4.29.66  
大崎 友数 4.30.70  
園村 和弘 4.43.30

5000m  
背戸 和寿 16.09.95 PB  
宮木 貴志 16.12.95  
相澤 泰隆(院) 16.18.60  
吉田 寛幸 16.56.15  
石塚 晶啓 17.03.78  
宇部 達 17.19.51  
110mH  
尾崎 禎亮 16.07 -1.4  
やり投  
松田 俊 45.16  
女子100m  
北川 佳奈 14.27 +0.7  
滝上 伸子 14.39 +1.2  
女子1500m  
山下 里絵 5.22.57  
中村奈都子 5.31.83  
女子110mH  
北川 佳奈 17.74 -1.9

### 記号の見方

:男子種目 :女子種目  
PB:自己新記録  
CB:大学における自己新記録  
:蒼穹ランク  
(記録を出した時点、20位まで)  
(院):学連登録の院生



蒼穹ニュース 平成15年度 第2号

平成15年5月23日 発行

発行所:京都大学体育会陸上競技部

編集者:宇部達・瀬々井巖士・渡寛法(副務)

特別協力:森一・田中齊太郎(学連員)・滝上伸子(体育会員)

山田修裕(記録係)・山下輝芳(HP係)

写真担当:杉本昌大・堀江匠・木村克也

陸上競技部 HP <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/>

蒼穹ニュース HP <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/soukyu.htm>

陸上競技部記録 HP <http://homepage2.nifty.com/bridge-as/>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス [tak.sesei.jk6esj@siren.ocn.ne.jp](mailto:tak.sesei.jk6esj@siren.ocn.ne.jp) (瀬々井)